

## 平成29年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

府民に信頼され、地域に根ざした、創造性豊かなものづくりができる社会人を育成する。

1. 知・徳・体・技のバランスのとれた人材の育成に努める。
2. 生徒一人ひとりの学力を伸ばさせ、将来的な展望を持たせ自己実現できるように努める。
3. 生徒一人ひとりを大切に、人権感覚豊かなエンジニアの育成に努める。

## 2 中期的目標

- めざす学校像に向けて、以下の取組みを行うとともに、絶えず振り返りを行い、ねらいどおりの結果が出ているかという計画・実践・評価・改善のPDCAを機能させて検証していく。  
概ね3年後を目途に以下のことに取り組み、※の目標を達成させる。

**1 教員一人ひとりが、自分の持っている力を高めて発揮できる学校**

- (1) 同僚性を高め、モラルの向上を図り、授業力の向上に取り組む。
  - ア 授業アンケート及び相互の授業見学を通して、授業力の向上をめざす。
  - イ 各系や教科を中心に経験の少ない教員等の学習会や技術力向上の研修会を開催し、授業力の向上をめざす。
  - ウ 英語や数学などの4科目や実習での少人数展開授業を実施し、生徒の学力定着を保障していく。
 ※教職員向け学校教育自己診断における授業力関連の肯定的意見を80%以上とする。
- (2) 学習意欲の向上の取組みを実施するとともに、「資格の藤工」を確立する。
  - ア 基礎学力テストを活用し、基礎学力を向上させ、就職、進学に備える。
  - イ 「ほめる 笑う 叱る」を教員に浸透させることで、生徒一人ひとりの学習意欲を高めさせ、学習意欲の向上を図る。
  - ウ 生徒の自己肯定感や自己有用感の向上のために、実社会において有用な資格の取得を奨励する。
 ※生徒向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的な意見を75%以上とする。  
※授業や補習などで、資格取得に向けて各系が取り組み、資格取得の合格率80%以上とする。

**2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと思える学校**

- (1) キャリア教育の充実を図り、生徒の自己実現を支援する。
  - ア 教科「キャリアガイダンス」やホームルーム活動等を通して、職業適性検査や外部人材、卒業生による講演会等を実施し、キャリア形成を高める。
  - イ 就労感、職業観の育成を図るために企業見学、インターンシップの取組みを行う。
  - ウ 応募前職場見学などを積極的に実施し、就職先企業とのミスマッチを防ぐ。
  - エ 全教員による面接練習、受験対策講習、小論文指導等を行い、進路支援体制を整える。
  - オ 部活動への入部を奨励し、学校行事を充実させて、生徒の自立心を育む。
 ※中高連携を図り、入学時の生徒情報を共有する。  
※生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定的意見を85%以上とする。  
※インターンシップの参加者を50人以上とし、平成31年には60人以上とする。  
※今年度の中退率を3%以下とし、平成31年には中退率を2.5%以下とする。  
※今年度の遅刻者総数から5%以上減少させる。  
※教職員向け学校教育自己診断における進路指導関連の肯定的意見を80%以上とする。  
※就職内定率100%、1次の就職試験合格率80%以上を維持する。  
※生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動の肯定的意見を60%以上とする。
- (2) 安全で安心な学校づくりを行う。
  - ア 担任団、各分掌、各教科との定期的な連絡会を開催する。
  - イ 教育相談体制を充実させ、SCやSSWを活用し、様々な課題を抱える生徒への支援を行う。
  - ウ 人権教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。
 ※教職員向け学校教育自己診断の生徒情報共有関連の肯定的意見を90%以上とする。  
※生徒向け学校教育自己診断の教育相談体制の肯定的意見を70%以上とする。  
※生徒向け学校教育自己診断の人権教育関連の肯定的意見を80%以上とする。

**3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校**

- (1) ホームページや学校説明会、中学校訪問等を通して積極的に情報発信を行い、工業教育に興味・関心の高い生徒の確保に努める。
  - ア 【学校を外に開く】ブログの更新を含め、ホームページの更新回数を増加する。
  - イ 【学校を外に開く】教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心とした中学校訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。
  - ウ 【学校を内に開く】体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取組みを実施する。
  - エ 【学校を内に開く】「ご来校（お電話）いただきありがとうございます」の姿勢を維持する。
 ※ホームページの閲覧回数を累計10万回とする。  
※新入生の出身中学への訪問も含め、生徒、教員による中学校訪問合計数を延べ100件以上とする。  
※体験入学者数、学校説明会参加者数、中学校教員向け説明会の参加者を延べ400人以上とする。  
※保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定率85%以上とする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析（平成30年1月実施分）	学校協議会からの意見
<p>【1 学力向上】</p> <p>・教員向けの肯定率は91%だが、生徒向けの肯定率は66%と開きがあり、肯定率の向上に向け、授業の改善や指導についての工夫が必要である。</p> <p>【2 進路実現】</p> <p>・90%の保護者が「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」との肯定的な回答であった。更に、キャリア教育の充実を図るために取組みを推進する。</p> <p>【3 生徒指導】</p> <p>・中途退学者が3.7%と増加傾向にあり、校内体制を見直し、改善に向けた取組みを進める必要がある。また、遅刻生徒が増加しており、分掌や学年を中心に、減少に向けた具体的な取組みが必要である。</p> <p>【4 広報】</p> <p>・学校説明会や体験入学の参加数は昨年度より2倍弱の増加であった。</p>	<p>第1回（9/5）</p> <p>○学習指導：学校の態勢について、ベクトルをそろえてが必要ではないか。 ：工業教育としてどのように特化していくのか。</p> <p>○生徒指導：校内組織をまとめ、中途退学者、転学者をもっと少なくする取組みが必要である（課題を抱える生徒の支援を行うために、教育相談体制の充実を図り、支援体制を強化）</p> <p>第2回（11/12）</p> <p>○生徒指導：様々な課題を抱える生徒の支援が必要となっている。教育相談体制の継続や充実が必要であり分掌内に位置付ける必要がある。</p> <p>○学習指導：専門知識を教えるだけでなく、わかりやすい授業の工夫・取組みが必要である。</p> <p>○学校 PR：webページについては、学校の教育活動がタイムリーに提供できるよう創意工夫しながら更新を行う必要がある。業務については分掌内に位置付けて取り組む必要がある。</p> <p>第3回（2/22）</p> <p>○生徒指導：遅刻が増加傾向にあり、実社会でも信用に係る問題である。個人カルテなど活用し、生徒の状況に応じた指導が必要である。 ：中途退学者が増加傾向にある。課題を抱える生徒等への校内体制をしっかりとし、支援を行う必要がある。</p> <p>○広 報：藤工の教育活動情報をタイムリーに提供できる体制の充実を図る事が必要。</p> <p>○校内美化：3S（整理・整頓・清掃）を推進し、校内美化にしっかりと取り組む必要がある。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教員一人ひとりが、自分の持っている力を高めて発揮できる学校	<p>(1) 同僚性を高めモラルの向上を図り、授業力の向上に取り組む。 ア 授業アンケート及び授業参観を通して授業力の向上をめざす。 イ 経験の少ない教員等の学習会や技術力向上の研修会を開催し、授業力の向上をめざす。 ウ 英語や数学などの4科目や実習での少人数展開授業を実施し、生徒の学力定着を保障していく。</p> <p>(2) 学習意欲の向上の取組みを実施するとともに、「資格の藤工」を確立する。 ア 基礎学力テストを活用し、基礎学力を向上させ、就職、進学に備える。 イ 「ほめる 笑う 叱る」を教員に浸透させることで、生徒一人ひとりの学習意欲を高める。 ウ 実社会において有用な資格の取得を奨励する。</p>	<p>(1) ア・授業アンケート結果及び授業参観に基づき、改善方策を検討する。 ・研究授業を実施し振り返りも行う。 イ・定期的な学習会等を開催する。 ウ・座学においては単元が終わるごとに、実習においてはショッパの区切りごとに科目担当者同士で授業の進捗や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有する。</p> <p>(2) ア・基礎学力テストを実施する。 イ・生徒の学習活動を肯定的に評価するとともに、興味関心を引き出すためICT機器等を活用した教材や指導法を研究する。 ウ・外部機関との連携等を活用し、資格取得支援チームを中心に資格取得の取組みを推進していく。</p>	<p>(1) ア・教職員向け学校教育自己診断「授業力関連」肯定率80%以上 (H28年度78%) イ・初任者研修等を毎週実施 ・初任者を含め公開授業の有無 ウ・教職員向け学校教育自己診断「評価・改善」肯定率75%以上 (H28年度69%)</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断「普通教科の学力」肯定率70%以上 (H28年度61%) イ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」肯定率70%以上 (H28年度66%) ウ・資格取得の合格率を70%以上 (H28年度51.5%) ・3つ以上の外部機関と連携</p>	<p>(1) ア・「授業力関連」肯定率は91%で前年度から13%上回った。(◎) イ・初任者研修等は毎週実施できなかった。(△) ・公開授業は6回実施できた。(△) ウ・「評価・改善」肯定率は66.1%で前年より2.9%下回り目標に届かなかった。(△) (2) ア・「普通教科の学力」肯定率は62%で前年度とほぼ横ばいだが、目標に届かなかった。(△) イ・「授業関連」肯定率は66.5%で目標に届かなかった。(△) ウ・国家資格取得の合格率は57.3%で目標に届かなかった。(△) ・資格取得も含めて6つの外部機関との連携を行った。(○)</p>
2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと思える学校	<p>(1) キャリア教育の充実を図り、生徒の自己実現を支援する。 ア 中高連携を図り、入学時の生徒の情報を共有する。 入学時から職業適性検査、外部人材及び卒業生による講演会や研修等を実施しキャリア意識を高める。 イ 就労感、職業観の育成を図るために企業見学、インターンシップの取組みを行う。 ウ 応募前職場見学等を積極的に勧め、企業とのミスマッチを防ぐ。 エ 全教員による面接練習、受験対策講習、小論文指導等を行い、進路支援体制を整える。 オ 部活動への入部を奨励し、学校行事を充実させて、生徒の自立心を育む。</p> <p>(2) 安全で安心な学校作りを行う。 ア 教育相談体制を充実させ、SCやSSWを活用し、課題を抱える生徒の多角的な支援を行う。 イ 人権教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。</p>	<p>(1) ア・中高連携を図り、入学時の生徒情報を共有する。キャリア教育支援委員会を中心に各学年のキャリア教育を検討し、学年間の情報交換を行う。 ・外部人材等を活用した各種講演会を開催する。 ・キャリアカウンセラーを活用し、良き社会人としての意識を高めさせる。 イ・インターンシップの拡充を図る。 ・遅刻者数を減らす。 ウ・応募前職場見学の意義を理解させる。 エ・全教員が進路指導担当であるという意識を醸成し、面接指導等を実施していく。 オ・部活動加入率を増加させる。 ・学校行事の時期も含めて検討し、活性化を図る。</p> <p>(2) ア・教育相談委員会はケース会議等を主催し、SCやSSWと連携して、個々の生徒の課題解決を図る。 イ・人権教育推進委員会では教職員と生徒に対する人権教育計画を策定し、研修等を通して人権感覚の醸成を図る。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「キャリア教育関連」肯定率80%以上 ・全教員による中学校訪問を含め中学校との連携を充実させる。 ・外部人材等による講演を10回以上実施 ・キャリアカウンセラーの活用20回を維持 (平成28年度20回) イ・インターンシップ参加者数50人以上を維持 (H28年度44名) ・遅刻者数1800人以下 (H28年度1931人) ・生徒向け学校教育自己診断「挨拶」肯定率80%以上 (H28年度79%) ウ・応募前職場見学参加率を就職希望者の80%以上 (H28年度79%) エ・教職員向け学校教育自己診断「進路指導関連」肯定率85%以上を維持 (H28年度86%) ・保護者向け学校教育自己診断「進路指導関連」肯定率85%以上を維持 (H28年度89%) オ・生徒活動部による部活動アンケートの肯定率70%以上を維持 (H28年度76%) ・生徒向け学校教育自己診断「学校行事」肯定率60%以上 (H28年度58%)</p> <p>(2) ア・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定率75%以上 (H28年度68%) ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定率60%以上 (H28年度54%) イ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定率75%以上 (H28年度68%) ・人権教育委員会主催による教職員研修を2回実施</p>	<p>(1) ア・「キャリア教育関連」肯定率は78%で目標より少し下回った。(△) ・外部人材等による講演は6回実施、キャリアカウンセラーの活用はしなかった。今回は、様々な課題を抱える生徒支援のために臨床心理士を活用した。(○) イ・遅刻者数は3106人で増加傾向であった。常習生徒への指導体制が必要。(△) ・「挨拶」肯定率は77%で目標は達成できなかった。生徒会主体の指導が必要。(△) ウ・応募前職場見学参加率は就職希望者の72%で昨年度を下回った。(△) エ・「教職員向け進路指導関連」肯定率は79%、保護者向け肯定率は90%だった。(△) オ・「学校行事」肯定率は61%で目標を達成した。(○) (2) ア・「生徒情報共有関連」肯定率は72%で「教育相談関連」肯定率は58%だった。いずれも昨年度より上回った。(○) イ・「人権教育」肯定率は71%で昨年度より上回った。(○)</p>
3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校	<p>(1) ホームページや学校説明会、中学校訪問等を通して積極的に情報発信を行う。 ア 【学校を外に開く】 ホームページの閲覧回数を増加させる。 イ 【学校を外に開く】 中学校訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。 ウ 【学校を内に開く】 体験入学、学校説明会を実施し本校の良さを知ってもらう。 エ 【学校を内に開く】 「ご来校 (お電話) いただきありがとうございました」の姿勢を維持する。</p>	<p>(1) ア・ブログを活用して、タイムリーな情報発信に努める。 イ・教員による中学校訪問を実施する。 ・今年度の中退者総数を減少させる。 ・生徒による出身中学校訪問を実施する。 ・中高連絡会を実施し、連携を強化する。 ・イベントへの参加を含め、出前授業等を実施する。 ウ・学校説明会や体験入学を実施する。 ・中学校教員対象の説明会を実施する。 エ・保護者への電話連絡をはじめ積極的に保護者懇談や家庭訪問を実施する。</p>	<p>(1) ア・ホームページの閲覧回数を累計7万アクセス以上 イ・教職員と生徒による中学校訪問件数合計85件以上 ・中退率を3%以下とする。(平成28年度3.4%) ・イベント参加や出前授業等10回以上 ウ・学校説明会・体験入学の参加人数・中学校教員対象の説明会の参加人数合計延べ350名以上 エ・保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定率85%以上を維持 (H28年度81%)</p>	<p>(1) ア・ホームページの閲覧回数は累89500アクセス。(◎) イ・教職員と生徒による中学校訪問件数合計92件で昨年度より上回った。(○) ・中退率3.7%昨年より増加 ・イベント等の参加は27回以上。(◎) ウ・学校説明会等の参加合計数は623名。(◎) エ・「学校評価関連」肯定率は80%で横ばい状況。(△)</p>